

2. 事業の概要と成果	
<p>(1) 上位目標の達成度</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カルナータカ州バンガロール県北バンガロール地区バガルール村に職業倫理研修、基礎技術研修が受けられる学生寮付き職業訓練学校が建ち、2019年4月から開校する。</li> <li>2. インド政府（Ministry of Skill Development And Entrepreneurship 以下、MSDE）において職業訓練・実業家育成学校やプログラムを統括する Skill India Program の公式カリキュラムを提供する National Skill Development Corporation（以下、NSDC）から承認を受け、職業訓練学校を開校できるようになった。</li> <li>3. NSDC が提供するカリキュラム終了後、生徒へ Skill India プログラム承認＝MSDE 承認の認定証が提供されるようになった。</li> <li>4. NSDC から技術研修（自動車工・電気工）、職業倫理研修（ビジネスマナー、清掃、ホテル・レストラン業などのサービス業、IT 研修）が提供されるようになった。</li> </ol> <p>上記のとおり、カルナータカ州バンガロール県北バンガロール地区バガルール村にインド中央政府承認の職業訓練学校が完成し、低所得層の若者に安定した雇用を得るために必要な技術が習得できる基盤ができた。</p>
<p>(2) 事業内容</p>	<p>本事業は、①職業訓練学校建設、②学校カリキュラム構築、③中央政府認知校登録の3つのコンポーネントにて実施された。2018年2月20日、本部派遣スタッフ横山浩平が、バンガロール県に着任後、現地提携団体 Indo Japan Skill Development Council (IJSDC) のスタッフ2名（ジャエド・ラフマニ（フィールド担当）、クマール・アビマニュ（会計関係担当））とともに事業を開始させた。ジャエド・ラフマニは、横山とフィールドを共にし、交渉、通訳などの業務を行った。クマールアビマニュに関しては、事務所に常勤し、会計（送金など）を横山の指示のもと実施し、週1回フィールドに来て、現地における支払い事項の管理を行った。その他、学校が政府に認知を得るためのルールに関しては、IJSDC の代表であるウノ・イクバルが調査を行い、横山と共に交渉などを行った。</p> <p>低所得層の若者が、毎日就学し、好成績をおさめ、就業するためには、充実した教材、訓練道具、頑丈な校舎や学生寮、必要な教育内容や講師陣を揃えることは当然であるが、安心して生活できる環境（寮完備、栄養バランスのとれた3食満足に食べられる環境と食事、清潔な水設備とトイレ、シャワー）の整備を前提に、本建設を開始した。</p> <p>① 職業訓練学校建設</p> <p>A 区分（教室、学生寮、キッチン（水設備を含む）、教職員室）</p> <p>2018年2月20日、本部派遣スタッフが着任後、見積書をとっていた CSH Service 社（旧 Texture &amp; Shades 社）とあらためて建設費用の見直しを行い、申請費用内にて実施できることを確認し、契約に至った。2018年3月初旬から建設を着工した。建設作業員は、作業チームリーダーを含む、常時15名から20名が作業に取りかかった（作業の仕上がり具合により、人数の調整は常時行った）。作業は、1ヶ月23日（基本は月曜から金曜までだが、祝日が多い10月、11月は、土日を作業日に含め1ヶ月23日作業を行うようにした）、9時から18時までを基本として行われた。毎日、本部派遣スタッフが作業内容、作業員数（出勤数）、材料到着の有無、発注状況などの確認を建設作業チームリーダーと行った。疑問点などは、CSH Service 社の代表との確認を行った。発注に関</p>

しては、CHS Service 社と作業の仕上がり具合と材料の在庫などを相互に確認しながら、発注、支払いを行った。

面積の大きい A 区分（教室、学生寮、職員室、キッチン・食堂）の建設の建設を開始した。既存の井戸から A 区分のキッチン内の水道設備、学生寮、教室横の簡易の水場、C、B 区分に併設されるトイレ、シャワー室の水道パイプラインの配管設備を同時に設置しなければならないため、C、B 区分のトイレ、シャワー室の建設も同時にはじめ、使用状況を確認したのち、B 区分（事務室）、C 区分（研究室）、D 区分（多目的室）の建設を開始することで決定した。

2018 年 3 月に A 区分の工事を開始した。2018 年 5 月後半には、建物の 70%は完成していたが、度重なる降雨により作業を中断する日々がつづき、事業期間を延長せざるをえなくなった。2018 年 9 月に電気の配線作業を残し、教室、職員室、キッチン、学生寮（先生用の寝室）が完成した。2019 年 9 月後半に、机、イスを設置した。

教職員室に関しては、先生用の机、イスを置いたが、スペースが広がったために、室内・室外の清掃研修の研修室としても使うことを決めた。生徒用・先生用のロッカーや室内用、室外用の清掃道具のセットもそのスペースに保管することにした。

キッチンに関しては、清潔、衛生的に保つために、タイルを全面的に貼り、清掃が容易な環境を整備した。大型冷蔵庫、皿、ボールセット、ガスコンロ、大型鍋（容量、用途によって異なる大きさ）などを設置した。1 回で約 100 人分の食事が配給できる設備を整えた。当初キッチン兼食堂という形で使用する予定だったが、キッチン横に屋根つきで室外の食事スペースを設けて、机、イスを設置し、IJSDC スタッフ、先生、生徒と一緒に食事し、コミュニケーションの機会をつくった。

その他、シャツのみユニフォームを作成した。18 歳から 30 歳の若者のサイズの調整が難しいために、業者と交渉し、サイズ交換がフリーでできるようにした。

#### B 区分（事務室エリア）建設

2018 年 8 月後半から、B 区分（事務室エリア）の建設を開始した。当初は、2018 年 5 月から C、D 区分と同時に建設を行う予定であったが、降雨による作業の頻繁な中断を理由に、作業人員を減らさなければならず、建設地が近い C、D 区分の建設を優先させ、B 区分の建設開始を最後にした。建設当初 T 字型の設計をしていたが、同じ大きさ（材料杯分にて）フラット型にしたほうが、構造が安定し、事務室としての仕事の効率性が向上することから、フラット型にし、部屋の配置を変更した。同時期にトイレの浄化槽の建設を開始した。

2018 年 11 月後半にトイレを含めた、B 区分エリアの建設が完了した。事務室 2 部屋、会議室、校長室用の机イス、パーティションなどの事務用品を設置し、作業が完了した。また、事務室とキッチンとの間に飲料水用の浄水器と浄水フィルターを設置し、水とトイレに困ることなく、事務員が作業できるようにした。

#### C 区分（研究室）、D 区分（多目的ホール）

2018 年 5 月後半から、建設作業を開始した。作業現場が隣接していることから、材料を同時に購入し、同時に作業ができること

から、C区分、D区分の建設、材料購入を同時に行った。2018年6月からの降雨により作業が頻繁に中断をした。天気予報や前日の降雨と土地の状況などを見ながら、人員を減らすなどしながら、できる限りの作業を進めた。2018年9月後半から、天候が安定しはじめ、作業員の数を増やし、建設を進めた。2018年11月に建設が完了した。

C区分の研究室は、技術訓練室専用にし、自動車工と電気工のそれぞれの道具セットを購入し、設置した。道具セットに関しては、NSDCから提供のカリキュラムに必要なものを揃えた。

D区分の多目的ホールに関しては、ビジネスマナー研修、コンピューター研修、プレゼンテーションスキルの実践などにて活用されることになった。そこに必要な、プロジェクター、スクリーンの他、机、イスなどが設置されている。

C, D区分に併設されているトイレは、シャワー室には、1回に18人がトイレ、もしくはシャワーを使用できるようにした。また、洗面所(4人使用)を同時に利用ができ、ストレスなく安心して使用できるようにしている。維持管理に関しては、基本は訓練の一環としてトイレ、シャワー室の清掃は、生徒が行うようにしている。清掃がしやすいように、キッチン同様タイルを全面的に貼り、管理がしやすいようにした。キッチンに女性が1名雇用されるため、壁で別室をつくり、女性がトイレやシャワーを使えるようにした。これにより、先生、生徒、職員、キッチンスタッフとも安心して生活、教育できる環境を整備した。

## ② 学校カリキュラム構築

2018年4月に、本会駐在スタッフ1名、現地提携団体 IJSDC スタッフ1名、職業訓練学校講師経験者1名、在バンガロール日本企業2社2名からなるカリキュラムチームを結成。基礎技術研修、職業倫理研修の科目によるカリキュラムづくりをはじめた。

基礎技術研修は、バンガロールでニーズの高かった自動車工、電気工、職業倫理研修は、ビジネスマナーやサービス業などで学ぶ挨拶作法などの研修を中心にカリキュラムを組み立てることにした。

同時期に、職業訓練学校をインド中央政府から承認(認知)を得るために、管轄の Ministry of Skill Development and Entrepreneurship (以下 MSDE) と交渉を開始した。(ただし、登録作業などは全て州ごとにて行われるため実際の交渉はカルナータカ州の中央政府担当局にて行っている。)

独自カリキュラムの承認を中央政府(MSDE)から得るためには、MSDEの職業訓練学校専用のプログラム「Skill India」の承認を得ている機関の連携が一番早いと提案を受け、バンガロール市内の機関「Pradhan Mantri Kaushal Vika Yojana (以下、PMKVY)」をカリキュラムチームに加えた。

その後、MSDEからの自動車工、電気工、ビジネスマナー研修の教科書を提供してもらい、それを基本にカリキュラムづくりを開始した。

2019年6月以降、天候不良により学校建設が期待以上に進まず、相当な遅れが生じていた。その頃から、PMKVYも諸事情によりカリキュラムチームの会合に欠席し始めた。2019年8月に連携を中断したい旨の連絡を受けた。

2019年10月初旬、PMKVYとの連携交渉の再開の目処が立た

ず、Skill India プログラム承認が困難になってきたと判断したため、Skill India Program 開始直後から様々な組織に Skill India プログラム承認のカリキュラムの提供を行っている National Skill Development Corporation（以下、NSDC）とカリキュラム提供について相談を行った。

NSDC もバンガロール県内において Skill India プログラム承認のカリキュラムの提供先を探しており、本会からの連絡があり、学校設立の目的、カリキュラムの内容の説明をしたところ、NSDC が同様のカリキュラムを提供できるとのことがわかった。それらの教科に加えて、NSDC 推奨のコースを数個追加することと、校舎の大きさ規模などが NSDC のカリキュラムの条件と合致しているなら、Skill India 承認を得られるようにするとの報告を受けた。

PMKVY との連携が中断してから、カリキュラムチームの作業も一部滞ってきたこともあり、チームを発展的解消し、NSDC からカリキュラムの提供を受けることで合意した。

結果、カリキュラムの内容は、技術研修として、自動車工・電気工の1コース、職業倫理研修の一環としてのサービス業コースとして、ホテル・レストラン業、小売業の2コース、ビジネスマナーの1コース、必須コースとして英語・IT研修の2コースを実施。決められた期間（20時間から236時間、）を行い、これらの学科を修了することで、政府から修了証書が得られる仕組みが作られた。また、コースの一環として実地訓練（OJT研修180時間）が含まれるが、これも開始から終了まで受入企業から NSDC、IJSDC にレポートが送られ、生徒の状況を把握・課題認識ができるようなシステムになっている。

11月後半に教科書の説明会を10日間、先生候補10名の前で行った。別のところで働いている先生ばかりであり、学校を休まなければならなかったために、その分の日当を支払った。

12月前半に NSDC から最終視察（学校、資機材など）が実施され、審議の結果、NSDC が条件としている校舎、道具など全部揃ったことから、口頭だが、Skill India の承認を得ることができた。2019年2月に現地団体 IJSDC が、正式に MOU を結んだ。

承認継続のためには、上記のカリキュラムを時間通りこなし、生徒がテストをパスし、無事修了することが条件としてあげられていること。加えて NSDC から各コースごとから、IJSDC において、Skill India 承認継続のための実行委員会を作ることになった。

下記がカリキュラムの内容と実施時間であり、これらの時間を全て修了し、NSDC が提供するテストをパスすることにより卒業でき、インド中央政府がサインした認定証が送られる。

#### A. 基礎技術研修

##### 1. 自動車工・電気工

No.	内容	時間
1	作業場における安全管理・指導	44
2	電気基本用語と内容（電荷、電圧、電圧量、電流、抵抗）	44
3	回路計の使用法および使用上の注意点	38
4	抵抗器、インダクタ、コンデンサーに	36

	ついて	
5	電源について	36
6	無停電電源、インバータについて	36
	合計	236 時間
	OJT 研修 (インターンシップ)	180 時間

## B. 職業倫理研修

### 1. ホテル・レストラン業研修

No.	内容	時間
1	ホテルにおける仕事内容について	10
2	成功するための心構え	10
3	顧客サービスとは	15
4	身だしなみについて	5
5	清掃方法について	30
6	窓口での顧客対応について	30
7	食事、飲み物の種類	30
8	安全管理・環境について	10
9	仕事の効率化について	6
10	組織や顧客へ好印象を与える方法	10
11	顧客サービスの問題点、解決方法	10
12	食事や飲み物の提供するための準備や方法について	10
13	顧客の歓迎の方法、食事、飲み物の提供の方法	10
14	食後の片づけの方法	10
15	精算の取扱について	10
16	安全で清潔で安心な環境を維持するため	10
17	サービス業における一般的な技術研修	10
18	ホテル、レストラン業のプロの技術研修	10
	合計	236 時間
	OJT 研修 (インターンシップ)	180 時間

### 2. 小売業研修

No.	内容	時間
1	小売業にて働くことの心構え	10
2	小売業における顧客へのサービス	15
3	小売業における販売物について	15
4	小売店のオペレーション、安全管理	10
5	顧客へ良いイメージを与える店舗とは	10
6	店舗内における商品のデモンストレーション方法について	15
7	顧客との良い人間関係のつくりかた	15
8	良い商品の見分け方	10
9	専門的なアドバイスを供給しながら顧客を商品購入へと促す方法	15
10	顧客が抱える問題への対応	10
11	クレジットカード申請方法について	10

12	サービスとセールスの向上方法	10
13	個々の顧客対応と商品購入後の対応について	10
14	効果的なサービスの供給方法について考える	10
15	各スタッフのサービス供給の方法について管理、指導する	10
16	持続的なサービスの向上について	10
17	効果的な小売りチームの構成	10
18	組織内における効果的な働き方	11
19	健康的で安全な職場の維持方法	10
20	小売りの一般的な技術	10
21	小売りのプロ技術	10
	合計	236 時間
	OJT 研修（インターンシップ）	180 時間

### 3. ビジネスマナー研修

No.	内容	時間
1	ビジネスマナーの内容	2
2	効果的なコミュニケーション方法について	2
3	身だしなみについて	2
4	内面を磨く	2
5	社交方法について	2
6	グループワークの方法	3
7	時間管理について	2
8	履歴書、職務履歴書の書き方	3
9	面接方法	2
	合計	20 時間

### 4. 英語研修

No.	内容	時間
1	英語研修の内容	2
2	英語によるスピーチの仕方	10
3	英語での歓迎方法	5
4	英語（読解力）	5
5	英語（スピーキング）	10
6	英語（ヒアリング）	5
7	メッセージの伝え方、書き方	10
8	英語による社交	10
9	英語による質問事項を埋める方法	3
	合計	60 時間

### 5. IT 研修

No.	内容	時間
1	コンピューターの基礎	20
2	インターネットの使い方	15
3	セキュリティについて認識	10
4	マイクロソフトワードの使い方	10

5	マイクロソフトエクセルの使い方	15
6	マイクロソフトパワーポイントでプレゼンテーションを作る	10
	合計	80 時間

### ③ 中央政府認知校登録

独自カリキュラムをつくり、インド中央政府から認知校として承認をもらい、政府から修了生に対して修了証書をもらうためには、MSDE 管轄の Skill India プログラム登録承認が必要であった。

そのことから、Skill India プログラム承認を目標に学校建設、学校カリキュラム作りを開始した。加えて、既に Skill India プログラムの承認をもらっている機関との連携が必要であると MSDE から提案を受け、PMKVY をカリキュラムチームに加え、連携を模索した。

2018 年 9 月頃から PMKVY の諸事情により連携が中断された。その後も連携交渉再開の目処が立たなかった。

目標達成が暗礁に乗り上げる中、Skill India プログラム承認機関・学校にカリキュラムを提供している NSDC に Skill India プログラム承認の件を相談したところ、NSDC 提供のカリキュラムを採用すること、その条件に見合った校舎（大きさ）や資機材が整備されているかで Skill India プログラム承認を得るようにするとのこと、条件が提示された。

中央政府認知は、本プロジェクトの達成目標のひとつであり、いち早く承認を得る必要があったために、作業が中断していたカリキュラムチームを発展的解消し、NSDC からカリキュラムの提供を受けることで決定した。

2018 年 11 月、学校の大きさを審査する視察が入り、問題なく審査を通過。同月の中旬から末日にかけて、NSDC が供給予定のカリキュラム（ソフトスキル面など）の説明会を開始した。事前に内容の説明を受けていた IJSDC の代表、UNO IQBAL が説明会を主催し、講師予定者 10 名が参加。主には NSDC 提供の教科書の内容の説明が行われた。教科書に関しては、NSDC から無料で提供された。NSDC からカリキュラムの提供が急遽決まったために、本説明会に関しては、ビジネスマナー、英語、IT 研修のみのコースの説明が行われた。

2018 年 12 月初旬に資機材の最終確認が行われ、口頭であるが承認を得た。（2019 年 2 月に MOU を交わした。）Skill India プログラムの承認は、1 回の MOU で半永久的に得られる承認資格ではなく、毎コースごとに、カリキュラムを確実にいき、生徒がテストをパスし、学校側がレポートを毎コースごとに提出することにより、承認の継続と修了証の提供が政府から送られることになり、毎コースごとにこれらの作業を継続することにより、政府承認が続く仕組みとなっている。ただし、条件をクリアしなければ、承認は見送られ、修了証は、政府からでないこと。

したがって、運営を担う IJSDC が Skill India 承認継続のため実行委員会を組む、外部から先生や生徒の指導を強化することにした。

### 報告総括

2019 年 2 月 20 日から学校建設をはじめ、カリキュラム作りと中央政府認知をめざす活動を同時進行で行った。天候不良と連携を模索していた PMKVY との作業中断に伴い、当初予定していた 2019 年 9 月 20 日事業終了を見直さざるをえなくなった。また、事業延長に伴い、開校時期を 9 月から翌年の 4 月へと大幅に変更することになっ

た。

企業と NGO と専門機関による相互のニーズにかなったカリキュラム作りをめざしてきたが、PMKVY のチーム離脱、中央政府認知という目標達成という、2 つのことから、NSDC からカリキュラムの提供を受け、政府から承認を受けるというシステムへと変更せざるを得なかった。活動当初に費やした作業時間が活かされなかったが、結果的には政府承認が早まり、目標に達成することができた。

学校は、当面本会のバンガロール支部（JAFS-Bangalore）も B 区分に事務室を置き、IJSDC とともに運営を継続するが、運営の中心は IJSDC に委ねており、本会は、資金協力とモニタリングを継続して行い、運営が安定し、現地のニーズに伴い、学校を拡充していく予定である。学費と企業寄付（卒業した生徒を採用した企業が一人にかかった食費や諸経費などを支払う NSDC 推奨のシステム）ことになっており、それにより運営を継続していくことになった。

今後必要なことは、NSDC 提供のカリキュラムを継続し、Skill India プログラム承認を継続することを通して実績を積み、より多くの生徒を企業採用にもっていくこと、それにより企業から信頼を高め、CSR の形の協力金をもらい、学校を持続的に運営していくことであり、本事業を通して、それが実現できる活動基盤ができた。

#### 出張・視察に関して

これらの活動に伴い、本部派遣スタッフは、本事業の広報と企業からの協力、生徒集め、参考事例視察を行い、事業を発展させるために下記の時間、場所へと出張を行った。

1. 2018 年 3 月 13 日～15 日  
場所：タミルナードゥ州チェンナイ  
内容：在チェンナイの日本企業（株式会社クボタ）訪問  
社内にて従業員の訓練施設があるため施設を視察。その他、訓練の内容、CSR における協力方法について本事業を紹介。
2. 2018 年 6 月 11 日～15 日  
場所：タミルナードゥ州チェンナイおよび郊外  
内容：現地 NGO HAND IN HAND の職業訓練および女性の自立支援センターの視察。その他、HAND IN HAND の活動内容など視察。職業訓練と訓練内容、日常の活動との関連性について相談した。その他、政府承認について相談。
3. 2018 年 6 月 27 日～7 月 2 日  
場所：マハラシュトラ州ナグプール県、ガッチロリ県  
内容：本会の活動地にて 18 歳以上の若者で都市部にて就業を希望している若者を対象に本事業を紹介。生徒の公募を行った。
4. 2019 年 9 月 16 日～20 日  
場所：カルナータカ州ビジャヤプーラ県（旧ビジャプール県）  
内容：本会の活動地であり、2009 年度 N 連資金により建設した職業訓練学校の卒業生との連携を模索するために現地視察を行った。同校の卒業生は、ビジャヤプーラ県内の県関連の電気工にて就業しているとのこと。

	<p>学校登録、政府承認のためにデリーの出張を予定していたが、登録承認の手続きは、バンガロール内で出来ることから、デリーの出張は行わなかった。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>本事業の成果として下記が達成された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年間 120名（半年 60名）の低所得層の18歳から30歳までの若者を訓練出来る学生寮付きの職業訓練学校ができ、カリキュラムに必要な資機材が導入され、2019年4月に開校できるようになった。加えて1日栄養バランスのとれた食事提供力のあるキッチンと衛生的な水、トイレ施設完備の学校ができ、どんなに貧しい生徒でも安心して通える学校環境が整備された。</li> <li>2. NSDCから技術訓練（自動車工・電気工）と職業倫理研修（ビジネスマナー、サービス業研修（ホテル・レストラン、小売業）、IT研修のカリキュラムが導入され、年間120名の生徒がそのコースにて訓練が受けられるようになった。</li> <li>3. インド中央政府のMSDEが実施しているSkill Indiaプログラムの承認を受け、学校を開校することが出来た。</li> </ol> <p>本事業により、持続可能な開発目標SDGsの目標1に貢献するためにインドの低所得層の若者に教育・職業訓練の機会、実践の機会、就業の機会、経済的自立から貧困を脱する機会を達成するために学校を設立した。また、教育課程の中で、栄養バランスのとれた食事を三食提供し、SDGs目標2に貢献する機会を設けた。男女の関係なく18歳から30歳の若者を対象に職業訓練学校を提供することで、目標4に貢献するほか、清潔で衛生的な水や衛生設備をストレスなく使えるよう規模の設備を設置し、目標6に貢献する機会ができた。</p>
<p>(4) 持続発展性</p>	<p>本事業終了後、現地提携団体IJSDCが、学校運営面（Skill IndiaやNSDCとの交渉や助成金、企業からの協力やCSRなど）を行い、学校の先生が指導、NSDCへのレポート作り、指導強化など）を見るという形で、運営面を本会から現地に完全に移行した。今後本会としては、学校の運営の状況を見ながら、必要であれば、設備強化のための資金協力などを行っていく。上記を踏まえて学校を下記のとおり持続発展させていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. IJSDCスタッフ3名が中心となり、先生10名、キッチンスタッフ3名、セキュリティ1名とともに学校運営を行い、学校内環境の維持管理を行う。加えて清掃全般は、訓練の一環として生徒が行うことで、将来に活かされる仕組みとした。</li> <li>2. 学校の経済面に関しては、当面3年間は、IJSDC運営主体のもと、自己資金（学費、企業からの協力金、本会支援）にて行う。生徒の成績、就業率などから実績が上がれば、MSDEから助成金、企業からの協力金も増えることから、最低3年間は、現状にて運営を維持する必要がある。</li> <li>3. NSDCがカリキュラム全般提供し、定期的にモニタリングに入ることによって、指導力の維持、強化がされる。その他、企業との連携も豊富なことから、本会やIJSDCが企業をゼロから探す必要がなくなり、運営負担の緩和ができ、指導と運営維持にフォーカスできるようになった。</li> </ol>

	<p>4. 学校周辺は、国際空港からも近く、産業パークが出来る予定であり、既にシェル社、第1交通社などの車関連の工場からはOJT研修などのひきあいがきており、今後の就業への繋がりが期待できる。</p> <p>5. 職業倫理研修の一環として、ホテル業、レストラン業、サービス業の教科が加わり、セキュリティスタッフを入れたことで、周辺の村の女性がこれらの教科を受けられる機会ができた。</p>
--	--